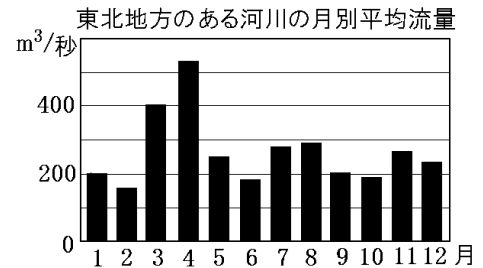


第 16 章	社会(地理)	名前:	日 付	No.02
	東北地方			

[問題 1]

東北地方の日本海側には、秋田平野や庄内平野などが広がっており、稲作がさかんである。その理由を右図から次のように考えた。

東北地方の日本海側では冬の積雪量が多い。これは、冬には北西の(①)が吹き、東北地方の中央を南北につらぬく(②)山脈にぶつかるためである。図のような河川の流量の特徴がみられる河川が東北地方に多いことから、(③)と考えた。



(1) ①、②にあてはまる語句を書け。

(2) ③にあてはまる適切な説明を次のア～エから選べ。

- ア 年間を通して流量に大きな変化がないので、稲作の用水として利用しやすい
- イ 冬の初めの時期は流量がもっとも少ないが、この時期の水を翌年の稲作に利用している
- ウ 雪どけ水が大量に流れ込む3～4月の時期の流量がもっとも多く、稲作に雪どけ水を役立てられる
- エ 梅雨の時期は流量が最も多く、稲作の用水を梅雨の雨に頼っている

[解答欄]

(1)①季節風	②奥羽	(2) ウ
---------	-----	-------

[解説]

[東北の稲作]

冬の豪雪→春:雪どけ水→稲作

全国の米生産の $\frac{1}{4}$ 以上→日本の穀倉

新潟	北海道	秋田	茨城	山形	宮城	福島	栃木	その他
7.7%	7.5	6.1	4.8	4.7	4.6	4.3	4.0	56.3

(2012年)

東北地方の日本海側では冬の積雪量が多い。これは、冬には北西の季節風が吹き、東北地方を南北につらぬく奥羽山脈などにぶつかって上昇気流が発生して雲ができ、日本海側に多量の雪をもたらすためである。春になると、冬に積もった雪がとける。

この雪どけ水が豊富にあるという条件が稲作に適していたことから、東北地方は日本有数の稲作地帯になった。東北地方で生産する米は、全国生産の4分の1以上をしめ、日本の穀倉地帯となっている。上の表は米の生産県である。

[問題 2]

次の各問いに答えよ。

- (1) 米の生産量を減らす政策を何政策というか。
- (2) (1)の政策が行われたのはなぜか。

[解答欄]

(1) 減反政策	(2) 食生活の変化によって米の消費量が減って米が余るようになったため。
----------	--------------------------------------

[解説]

[減反政策]
食生活の変化→米の消費量が減少
→米が余る→減反政策

1960年代から、食生活の変化によって米の消費量が減り、米が余るようになった。

そのため、1970年代以降、稲の作付けを制限する減反政策(生産調整)がとられるようになった。

[問題 3]

次の各問いに答えよ。

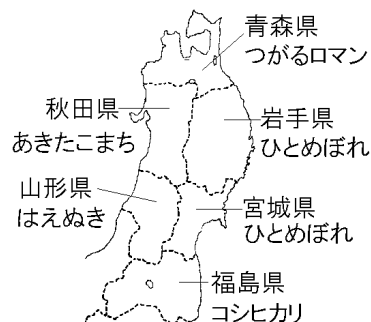
- (1) 東北地方の太平洋側では、稲の成長期に冷たい風が吹いて収穫量が大きく減ることがある。このような被害を何というか。
- (2) 東北で(1)の被害をのりこえた方法を説明せよ。

[解答欄]

(1) 冷害	(2) 「ひとめぼれ」などの低温に強くおいしい銘柄米を開発してのりこえた。
--------	---------------------------------------

[解説]

[銘柄米 開発の理由]
おいしい品種を作るため
低温に強い品種を作るため←冷害



減反政策によって米の産地は、他の作物への転作を行う一方で、消費者に喜ばれる、よりおいしい米への品種改良も進めた。

また、太平洋側では、稲の生長期にやませがふくと、稲が十分に育たず、収穫が少なくなる冷害が起こることがある。

このような冷害に対して、人々は「ひとめぼれ」などの低温に強くおいしい銘柄米を開発してのりこえてきた。

銘柄米としては、ひとめぼれ(宮城県・岩手県)、つがるロマン(青森県)、あきたこまち(秋田県)、はえぬき(山形県)、コシヒカリ(新潟県・福島県)などが有名である。

[問題 4]

「コシヒカリ」などの米を特に何というか。

[解答欄]

銘柄米

[問題 5]

次の各問いに答えよ。

	生産量	生産県(道)順位
①	852.3 万 t(2012 年)	新潟(7.7%)、北海道(7.5)、秋田(6.1)、茨城(4.8)、山形(4.7)
②	2.0 万 t(2011 年)	山形(76.5%)、北海道(6.0)

(1) 上のグラフ①、②で示した農産物を次から 1 つずつ選べ。

[ぶどう さくらんぼ りんご 小麦 米]

(2) (1)の①、②の農産物のおもな生産地を、次から 1 つずつ選べ。

[平野 雪の多い山間地 扇状地や山の斜面]

[解答欄]

(1)①米	②さくらんぼ	(2)①平野	②扇状地や山の斜面
-------	--------	--------	-----------

[解説]

[果実の生産順位]

りんご:青森(56%), 長野(21%), 岩手(6%)

さくらんぼ:山形(77%), 北海道(6%)



東北地方には、果樹栽培に適した山の斜面や扇状地が多いので、さまざまな果実が栽培されている。

青森県は日本 1 位のりんごの生産県で、全国の約半分の量にあたるりんごを生産している。

中心地は、弘前市を中心とした津軽平野である。

りんごの生産第 2 位は中部地方の長野県で、3、4 位に東北地方の岩手県と山形県がはいる。

山形県は、さくらんぼ(おうとう)の生産量が日本 1 位である。

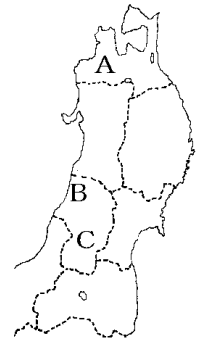
最上川の中流に位置する山形盆地では、りんごやさくらんぼなどの果樹栽培がさかんである。(統計修正)

「日本国勢図会 2013/2014」 P163

[問題 6]

右の地図中の A～C の地域で見られることとして正しいものを次からそれぞれ選べ。

- ア 最上川の下流に位置する庄内平野は、稲作がさかんで水田単作地帯となっている。
 イ 岩木川沿いに開けた津軽平野では、寒くても収穫が安定しているりんごの栽培が稲作より早く広まった。
 ウ 最上川の中流に位置する山形盆地では、りんごや西洋なし、さくらんぼなどの果樹栽培がさかんである。
 エ 日本で 2 番目に広がった湖の八郎潟を干拓し、広大な稲作地とした結果、一時は全国 1 位の米の生産県になった。



[解答欄]

A イ	B ア	C ウ
-----	-----	-----

[解説]

エは秋田県である

[問題 7]

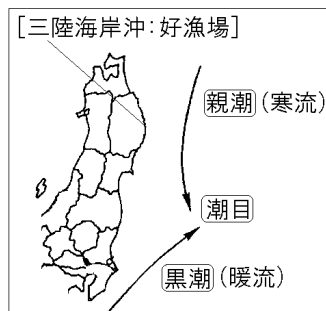
東北地方の太平洋側は、暖流と寒流がぶつかり好漁場となっている。

- (1) その 2 つの海流がぶつかる場所を何というか。
 (2) 暖流と寒流の名称をそれぞれ答えよ。

[解答欄]

(1) 潮目	(2) 暖流：黒潮(日本海流) 寒流：親潮(千島海流)
--------	-----------------------------

[解説]



暖流の黒潮(日本海流)にはたくさんの種類の魚がいる。また、寒流の親潮(千島海流)には栄養分が多く含まれているため、プランクトンが多い。(親潮という名は「魚類を育てる親となる潮」という意味である。)

三陸海岸の沖合は、黒潮と親潮がぶつかって潮目ができる。

寒流と暖流は混じり合いにくいいため、潮目では魚のエサとなるプランクトン多くなり、多くの魚が集まる。

[問題 8]

三陸海岸の湾で養殖漁業がさかんな理由を、地形の特色に注目しながら説明せよ。

[解答欄]

リアス海岸の湾内は波が静かだから。